

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



合田 直弘

この会報が皆様の御手許に届く頃、北米のケンタッキークーダービー戦線は本番まで残り2カ月余りとなり、白熱の度を増していることと思う。その、北米ホースマンにとって最も勝ちたいレースに、片手に余る有力馬を擁して臨もうとしているのが、今月のこのコラムの主役であるトッド・プレッチャード調教師だ。

14年も2248万ドルの賞金を取得して5年連続9度目の全米リーディングを獲得し、年度表彰のエクリップス賞でも2年連続通算7度目となる最優秀トレーナーに選出されたプレッチャード。エクリップス賞受賞7回というのは歴代最多受賞記録(2位は5回のボビー・フランケル)だが、これだけの実績を積み重ねてきた調教師が、1967年6月26日生まれの47歳という事実に、普段は北米の競馬を御覧にならない方は、驚かれるうこと思う。

クオーター馬の調教師をしていた

ジェイク・プレッチャードの子息として生まれた彼が、父の厩舎でホットウォーカーとして働き始めたのは6歳の時だったという。中学になると長い休みには父以外の厩舎でもグルームとして働くようになり、アリゾナ大学在学中にはチャーリー・ヴィティングハムやウェイン・ルーカスといったビッグネームの下で仕事をする機会を得た彼は、大学を出るとすぐにルーカス厩舎の一員となり、2年後にはアンスタン

トトレーナーに昇格。調教師免許を取得したのは95年12月で、27歳の新人トレーナーが初勝利を挙げたのが96年2月だった。

飛躍の年となつたのは98年で、この年の2月にレアロックでG3ガルフストリームパークスプリントCSを制し重賞初制覇。同年6月にジャージーガールでG1エイコーンSを制しG1初制覇。そして同年夏、サラトガ開催で20勝を挙げ開催リーディングとなり、プレッチャード厩舎の名は一躍全国区となつた。

ケンタッキーオークスやBCディスタフを制し最優秀3歳牝馬に選ばれたアシヤドー、BCスプリントを制し最優秀スプリンターに選出されたスペイツタウンらが活躍した04年に、自身初となる全米リーディングを獲得。同時に、これも自身初となるエクリップス賞を受賞し、プレッチャード厩舎は開業10年にして頂点に上り詰めることになった。

07年には牝馬のラグストウリッヂーズでベルモントSに優勝。10年にはスーパーセイヴァーで待望のケンタッキークーダービー制覇を果すなど、大調教師への道を着実に歩んで来たプレッチャード。開業時の管理頭数は7頭で、このうち4頭は父のメイドンを8.1/2馬身差で制して初白星を挙げたジェイエスバッハ(父ティルオヴザキヤット)、1月24日にガルフストリームで行われたメイドンを3.3馬身差で制しデビューウィン(父デイストーテッドヒュー)と、プレッチャード厩舎の馬が実際に6頭も含まれていたのだ!

質量とともに抜群の戦力を誇るプレッチャード厩舎が、今後のダービー戦線をどう戦っていくかに注目したい。

北米ではパリミュー・チュアル方式によるケンタッキークーダービーの前売りが催されていて、そのペール2が2月6日から8日まで発売されたのだが、主催者が馬券の対象としてセレクトした、現段階におけるダービー有力馬23頭の中に、G1ブリーダーズブリーチユリティ勝ち馬カーペディム(父ジャイアンツコーズウェイ)、G1シャンパンS勝ち馬デアデヴィル(父モアゼンレディ)、G1ホープフルS勝ち馬コングペティティヴエッジ(父スープラセイヴァー)、1月4日にガルフストリームの条件戦を5.1/4馬身差で制しデビューウィン(父レモンドロップキッド)、1月17日にガルフストリームのメイドンを8.1/2馬身差で制して初白星を挙げたジェイエスバッハ(父ティルオヴザキヤット)、1月24日にガルフストリームで行われたメイドンを3.3馬身差で制しデビューウィン(父デイストーテッドヒュー)と、プレッチャード厩舎の馬が実際に6頭も含まれていたのが昨年の2歳世代で、その豊富な手駒を擁して挑もうとしているのが、今年の3歳戦線なのだ。